

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	池田郷域考 : 雜録
Author(s)	藤井, 甚太郎
Citation	龍南會雜誌, 101: 37-42
Issue date	1903-10-24
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5604
Right	

池田郷域考

藤井甚太郎

源能州氏著倭名類聚抄郷里部、擧ぐる所、筑前糟屋郡の古郷里、九ヶ、曰く

一 香樵郷

一 柞原郷

一 勢門郷

一 志珂郷

一 池田郷

一 大村郷

一 敷梨郷

一 厨戸郷

一 阿雲郷

就中前者四ヶ郷は現今同音の地名を存するを以て、此に山川の形勢陰陽の度を按じ、古郷域の推定難からずして、疆域大小の跡、机上に斷すべきも、後者五ヶ郷に至りては、年月の久しき圖籍散亡の禍に遇ひ或は王綱解紐の間干戈滿目郡邑の疆界壞亂し、土地の稱謂隨て變じ、今や訛轉と斷すべき地名すら、之を欲き、位置の比擬頗る難事たり、生不肖なりと雖も之を明確にせんと願望ありき、而して靜かに思へらく、彼の官幣大社香椎宮は、西海の名祠にして、歷朝の奉幣頗る多し、其の記録の如き或は筑前古郷域を斷するに有力なる史典を與ふるなるべしと、此の夏史蹟調査の途、同社社務所に宮司木下重美氏を訪ひ記録閱覽を果す、幸にも同社神領の記録に於て後者の一なる、池田郷を考すに補助たるべき記述を發見しぬ、則ち之に基き、實地調査の結果を併考し、以て池田古郷の郷域を斷定せんとす、未だ國史の研鑽日淺く考證未熟、定めし露骨獨斷の嫌あらん、大方博雅の示教あらば幸甚の至りなり。

論述の序として先人の述べし處を伺はんに、

一、續筑前風土記（貝原篤信著）卷十八、

一 池田 答原下原ふと池田ふとふといふ

按するに先生は第二者の地位に立ち、記錄の證明を與へ給はず、頗る薄弱なる論據の上に立ち、而かも民俗今や答原下原を池田と云ふものなし、然れども他に比擬すべき地點無きを以て伊藤常足、青柳種麻呂等も亦此流を汲み其著太宰府管内志、續筑前風土記拾遺に於て同説を擧ぐ、生の本篇云はば此説に有力なる論據を與ふるに過ぎず

一大日本地名辞書（吉田東伍著）三ノ下

一 池田郷 租名抄、糟屋郡池田郷今大川村、仲原村などあるべし、

續風土記に塔原の邊を今も池田郷と稱す曰や、塔原は大川村戸原なり、仲原郷の西にす

按するに吉田東伍氏の塔原を以て大川村戸原に解するは、香稚村唐原郷のあるを注意せずして戸原に心引かれし故ならん、以下の論述此を証して余りあり

先人の述る所、説く所斯の如し、此れより引證の證明に移らん、

一、延元元年元月直義多々良川の戦勝により神領を與ふ

池田郷於香稚唐原秋山相嶋百二十町……

按、唐原は目下香稚村治域の一邑なり續筑前風土記に荅原とあるもの即ち此邑なり

秋山は香稚村大字下原の一小地なり

相嶋、海上三里の沖に同名の一島あり、所謂る神功紀「皇后使阿瓮海人鳥摩侶出於西海」とある者即ち此れ、然れども位置頗る差あり、思ふに此れにはあらざるべし香稚附近の地名ならん、

後哲の説を俟つ

此一條池田郷の方域を斷するに足る

一文明十八年正月朔武内氏再び大宮司に任ず、

池田郷の内、脇田四段は若宮御灯坊より博多聖福寺の供西堂へ六石の質に納れたるを………

按、脇田は香椎村大字濱男第四番地に同名の小字存す、此れなるべし

一、天文三年閏四月二日大領清宜、再び大宮司に任ず、三苦職知行の田付目録を改め記す、

池田郷内杉山田一段、芹田、門田一町五段は法華役田換公文給也、楠田一段は神幸の掃塵田也三段

は同役換公文給也………土井本大小浦一段は法華役田也、大唐奈木一段は同役、數社の下一段

は同役御供所修理田一町四段、小坡三段は法華役田、胡多々五段は灯燭田二運河本三段は朔役田

也、浦三段は朔役田也、挑打掛法華役田として四段三百歩、大は法華役田、北の上三段は同役也

、引田三段は同役也

以下 現在稱謂の地名と、前文に於て池田郷として記述されし小地名とを推定せんに

杉山田 香椎村大字香椎字杉山

芹 田 同 字芹田

門 田 同 字門田

楠 田 同 字楠田

土井本 同村大字下原字土井

大唐奈本廟同 大字大道ナギ

鍛社下 同村大字唐原字鍛ノ下

浦 同 字浦

挑打 同 字挑掛ケ

引 田 同 引田

一 永錄二年八月二十四日祠官中、記す、香推宮領質券の内、歸り来る知行券の目錄に、池田郷内杉山田大腰本田別所居地中原桓側へ三段……木下分也 池田郷内江畑二段走り一段半清介三郎分也 池田郷内雉尻口野寄り一段山の相大薦原大丸山畑地は同分七郎分也 池田郷内奈古蘭拔田二段半……惣で一町五段半木下氏分也 池田郷内奏田二段宮が浦は伴御田家分也 池田郷内彌勒寺前二段彌勒寺屋敷二ヶ所平畑一段雁股畑一段窪畑小岡坊分也 池田郷内藏の本二反池尻一反大片長大畑田二反挑掛り二反律院跡檢校の畑燧石一段、相島五反野口一ヶ所新張供道入道三反は遍照院分也 池田郷内疋田一段は二の御灯勢圖分也 池田郷内盛一反は兵部卿分也 池田郷内箕牟田五反……觀進坊分也 池田郷内春田一反 子守二反葛葉屋敷半ヶ所は仲坊分也 池田郷の内宿の前首の浦一反 唐原一反 井の窪一反 同半は右伶人分なり 池田郷内猪子田一反は預一番徳祐分也 池田郷内象瀬一反 原田一反 卒都婆崎三反は二の引領分也

前例に倣ひ推定す

大藏本香推村大字香推字コシキ圖

江 畑 同 村大字濱男字江畑

山 相 同 村大字香稚字丸山

大丸山 同

別所居地 同 字別所

宮ヶ浦 同 村大字下原宮ヶ浦

彌藝寺 同 村大字香稚

雁股畑 同 字別所

藏の本 同 村大字濱男字藏の本

池 尻 同 字別所

大片間 同 字片男佐

大廻り田 同 大字香稚字典り

律院跡 同 村大字香稚字丸山

疋 田 同 村大字唐原字引田

春 田 同 村大字香稚字早田

子 守 同 字古森

宿ノ前 同 字杉山

井ノ窪 同 村大字唐原字井ノ窪

象、瀬川同 村大字香稚宇雜瀬

原、田川同 村大字濱男宇原田

卒都波崎川同村大字唐原宇外輪崎

一天正十五年十一月十日小早川隆景公神領を獻す坪付目錄の分

池田郷内五十三町反……

以上の論述により池田郷の域が現今、香稚村治域に相當する事明かなり、然れども和名抄付、特に香稚、池田の兩郷を立つ、先王陌阡を度りて建てられし口郡、郷里の制乱れ、池田香稚郷域同化せしか、或は香稚宮礎の下武内氏以下の四黨を主とし戸數五十に滿ち戸令の

凡里以五十爲里

により 特に聖域として少區を建しか、兩者の可否は先輩の示教俟つ

亡友高橋久太郎君

京都大學、花田大五郎

明治三十六年七月二日、畏友高橋久太郎君逝く。君は筑後三井郡の人、明治十二年七月に生る。幼にして小學科を其郷に學び、年甫めて十五、久留米中學明善校に入り、既に俊才の名あり。稍々長じて寄宿舎々長に任せられ、辯論研究會々長に推され、矯々會雜誌部副部長に舉げられ、又演說部